牛 肉 情 勢

5月15日 更新　JA全農ミートフーズ株式会社

項 目		内 容
供給	1.国産	○ 3月の成牛と畜頭数は、89.6千頭(前年比96.6%)と前年を下回った。 内訳を見ると、和牛:41.7千頭(前年比102.8%)、交雑牛:21.0千頭(同96.0%)、乳牛去勢:10.8千頭(同96.4%)となった。 ○ 4月の成牛と畜頭数は、速報値(4月30日まで集計)で96.2千頭(前年比103.2%)と前年を上回る見込みとなった。 ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(4月25日公表)によると、4月の出荷頭数は、交雑種で減少するものの、和牛、乳用種で増加が見込まれることから、前年を上回ると予測する。 5月は、乳用種で減少するものの、和牛および交雑種で増加が見込まれることから、前年同月を上回ると予測する。 (4月 96.4千頭(前年比102.8%)、5月 87.2千頭(同102.4%)) そのため、3か月平均(3月～5月)では、出荷頭数90.1千頭(前年比99.3%)、生産量29.0千ﾄﾝ(同99.7%)と前年並みの予測となっている。
	2.輸入	○ 3月の輸入通関実績は、全体で38.4千ﾄﾝと前年を上回った(前年比104.3%、前月比123.7%)。 内訳ではチルド:18.2千トン(前年比102.3%、前月比145.2%)、フローズン:20.2千ﾄﾝ(前年比106.2%、前月比109.2%)となった。 輸入相手国別では、チルドは豪州、ニュージーランドが増加したが、米国、カナダ、メキシコは減少した。フローズンは豪州、ニュージーランドが増加し、米国、カナダは減少した。 (参考:形態別相手国別輸入数量) チルド　　:豪州9.9千ﾄﾝ(前年比130.6%)、米国7.0千ﾄﾝ(同79.0%)、ニュージーランド0.7千ﾄﾝ(同199.5%)、カナダ0.4千ﾄﾝ(同60.1%)、メキシコ0.2千ﾄﾝ(同80.4%) フローズン :豪州8.2千ﾄﾝ(前年比154.0%)、米国6.6千ﾄﾝ(同78.3%)、カナダ2.8千ﾄﾝ(同91.5%)、ニュージーランド1.7千ﾄﾝ(同185.8%)、メキシコ0.7千ﾄﾝ(同60.9%) ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測によると、チルドは、国内需要が低迷下にある中、現地相場の高騰等により、米国産の減少が見込まれることから、4月、5月ともに前年同月を下回ると見込んでいる。 フローズンも同様の傾向であり、主要国を含む多くの輸入先からの輸入量が少ないことから下回ると見込んでいる。3か月平均でも、チルド、フローズンともに下回ると見込んでいる。 令和6年 4月　合計:49.8千ﾄﾝ(前年比73.3%)、チルド:17.3千ﾄﾝ(同82.1%)、フローズン:32.5千ﾄﾝ(同69.5%) 令和6年 5月　合計:42.4千ﾄﾝ(前年比91.3%)、チルド:16.0千ﾄﾝ(同99.4%)、フローズン:26.4千ﾄﾝ(同87.2%) 直近3か月(3月～5月)平均 合計:43.5千ﾄﾝ(前年比86.3%)、チルド:17.1千ﾄﾝ(同93.2%)、フローズン:26.4千ﾄﾝ(同82.5%)
需要	1.家計消費	○ 総務省発表の3月度家計調査報告によると、全国二人以上の1世帯当たり牛肉購入量は467g(前年比100.2%)、支出金額が1,704円(同106.8%)となり、 購入量、支出金額ともに前年を上回った。(※2019年度同月比:購入量 81.8%、金額 102.0%)
	2.小売動向 3月概況	○ 日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の3月の販売統計速報によると、畜産部門の売上高は1,210.9億円(前年比105.3%、既存店ベース103.9%)と前年を上回った。 価格が安定の豚肉や鶏肉に需要シフトが継続しているものの、全体的に前年に比べ相場に落ち着きが見られはじめ、販売は好調に推移。豚肉は国産相場が安定し、普段使いの商材を中心に売上が回復。前年の鳥インフルからの反動もあり、鶏肉も引き続き好調に推移した。前年より気温が低く、鍋関連の動きが良かった。国産牛肉は、ひな祭り、卒業式シーズンなどハレの日を中心に回復傾向がみられたが、輸入牛は価格が高騰しており動きが鈍い。加工肉は値上げの影響で動きが鈍い店舗が多い。
	3.外食 3月概況	○ 日本チェーンストア協会が公表した3月販売概況によると、畜産品の売上は962.4億円(店舗調整後で前年比110.2%)となり、前年を上回った。 豚肉、鶏肉の動きは良かったが、牛肉の動きは鈍かった。鶏卵、ハム・ソーセージの動きは良かった。 ○ 日本フードサービス協会がまとめた外食産業市場調査3月度結果報告によると、今年の3月は土日の数が前年より2日多い曜日まわりだったこと、コロナ禍の無い歓送迎会シーズンとなったことで客足堅調で、 全体売上は前年比111.2%、2019年比では113.5%となった。円安傾向の継続や、北陸新幹線延伸開業などもありインバウンドを中心に観光需要が好調であった。 業態別; ①ファーストフード　前年比110.7%、2019年度比127.2%　前年より気温が低く温かいメニューが好評、桜の開花が遅く持ち帰り需要が伸び悩んだが、キャンペーンやCM等により好調。 ②ファミリーレストラン　前年比113.0%、2019年度比104.1%　テレビの露出効果や春のキャンペーンが好評。焼肉店は、団体や食べ放題、訪日外国人の集客が好調だった。 ③ディナーレストラン　前年比111.6%、2019年度比 99.7%　引き続き、訪日外国人の利用増加と客単価上昇により好調だった。 ④居酒屋　前年比106.0%、2019年度比 65.2%　5年振りにコロナ禍の無い歓送迎会シーズンとなり、一部で大規模の宴会も回復し、週末の集客も好調となった。
	4.輸出	○ 3月の輸出実績は771.2ﾄﾝ(前年比100.8%)と前年並みとなった。台湾向け(180.9ﾄﾝ、前年比158.5%)、香港向け(110.0ﾄﾝ、前年比103.5%)は前年を上回り、 米国向け(105.9ﾄﾝ、前年比54.3%)は低関税枠の終了が影響し前年を下回った。また、カンボジア向け(96.1ﾄﾝ、前年比127.5%)は前年を上回ったが、不安定な状況が続いている。
在庫	1.在庫	○ (独)農畜産業振興機構の需給予測によると、3月末の推定期末在庫量は124.3千ﾄﾝ(前年比83.0%、前月比96.3%)と前年を下回った。 内訳は、輸入品;111.2千ﾄﾝ(前年比81.1%、前月比94.5%)、国産品;13.1千ﾄﾝ(同104.1%、同115.0%)となり、輸入品は前年実績を下回り、国産品は上回った。 なお、今後の期末在庫の推移は、4月末;120.9千ﾄﾝ(同75.5%)、5月末;123.4千ﾄﾝ(同76.8%)と、4月、5月ともに前年を下回ると見込まれている。
枝肉相場	1.R6年4月 速報値	○ 4月の東京市場枝肉卸売価格(速報値;4月30日時点)は、和牛去勢A5が2,494円(前年比95.3%)、A4が2,166円(同93.0%)、交雑去勢B3が1,605円(同106.4%)、 乳牛去勢B2が926円(同85.8%)であった。 ○ 4月は、和牛が外食需要は堅調なものの量販店での交雑牛へ需要移行や販売不振から、前年・前月を下回った。交雑は量販店での需要増により前年・前月ともに上回った。 乳牛去勢は、輸入牛肉の代替需要から需要が回復基調となっており、前月を上回ったが前年は下回った。
	2.R6年5月 予測	○ 5月は、母の日やBBQ需要等による牛肉消費に期待が出来るものの、和牛は出荷頭数の増加が予想され需給が緩和するため、弱含みが見込まれる。 交雑は、量販店での和牛からの移行が見込まれるものの、出荷頭数の増加が予想されることから、需給がバランスし前年を上回るものの、前月からは横ばいが見込まれる。 一方、乳牛去勢は、輸入牛肉の高騰や輸入量の減少から代替需要を見込むが、限定的であることから横ばいでの推移が見込まれる。 ◎ 枝肉相場予想:東京市場【税込】　3月実績　4月速報値　5月予測　6月予測 ・和牛去勢 「A-5」: 2,530円 (98.1%)　2,494円 (95.3%)　2,450円 (95.7%)　2,450円 (95.6%) ・和牛去勢 「A-4」: 2,179円 (96.6%)　2,166円 (93.0%)　2,150円 (96.2%)　2,150円 (98.8%) ・交雑去勢 「B-3」: 1,546円 (107.3%)　1,605円 (106.4%)　1,600円 (106.3%)　1,550円 (106.7%) ・乳牛去勢 「B-2」: 877円 (94.4%)　926円 (85.8%)　900円 (95.4%)　900円 (98.6%)
部分肉相場	1.R6年5月 予測	◎ 首都圏仲間価格【税抜】　【和牛:4等級】　【ホルス:2等級】　【交雑牛:3等級】 ・和牛カタセット(スネなし) : 3,000円　・ホルスカタセット(同) : 1,850円　・交雑牛カタセット(同) : 2,200円 ・和牛ロースセット(ヒレなし): 5,800円　・ホルスロースセット(同): 3,500円　・交雑牛ロースセット(同) : 4,800円 ・和牛モモセット(スネなし) : 3,500円　・ホルスモモセット(同) : 1,800円　・交雑牛モモセット(同) : 2,300円 ・和牛トモバラ : 2,000円　・ホルストモバラ : 1,250円　・交雑牛トモバラ : 1,500円

備　考

○国内生産量の推移(単位:千頭・%)

暦年	和牛計		交雑牛計		乳牛去勢計		成牛計	
	頭数	前年比	頭数	前年比	頭数	前年比	頭数	前年比
R2年	477.2	104.2	227.8	96.2	161.6	96.2	1,047.1	100.8
R3年	483.1	101.2	228.9	100.5	154.5	95.6	1,054.6	100.7
R4年	490.2	101.5	248.6	108.6	140.8	91.4	1,083.1	103.0
R5年	506.7	103.5	262.1	105.5	131.5	93.5	1,098.7	101.7
R5年　12月	47.9	102.1	23.3	101.5	10.5	94.3	97.5	98.9
R6年　1月	39.3	109.1	20.0	99.8	10.2	97.4	85.2	101.7
R6年　2月	38.9	108.0	19.8	100.8	10.4	96.8	83.9	101.3
R6年　3月	41.7	102.8	21.0	96.0	10.8	96.4	89.6	96.6

※成牛計は、乳牛雌やその他品種も含まれるため数字が一致しない

○輸入量の推移(単位:千ﾄﾝ, %)

暦年	輸入数量合計		チルド数量		フローズン数量	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
R2年	600	97.6	262	95.1	339	99.5
R3年	585	97.4	264	100.9	321	94.7
R4年	560	95.4	217	83.0	343	104.3
R5年	504	90.9	199	92.6	305	91.3
R5年　12月	36.1	96.4	15.0	97.3	21.1	95.8
R6年　1月	43.3	108.4	17.0	105.5	26.3	110.3
R6年　2月	31.0	81.6	12.5	94.0	18.5	75.0
R6年　3月	38.4	104.3	18.2	102.3	20.2	106.2

＊財務省:
通関実績

○総務省:家計消費量(ｸﾞﾗﾑ, 円, %)

暦年	全国1世帯当り				チルド数量	フローズン数量	合計	前年比
	数量	前年比	金額	前年比				
R2年	7,199	109.8	23,677	111.8	2,341	2,503	4,845	111.6
R3年	6,748	93.7	23,210	98.0	3,490	4,388	7,879	162.6
R4年	6,232	92.4	22,355	96.3	3,737	3,717	7,454	94.6
R5年	5,867	94.7	21,451	95.9	4,222	4,199	8,421	113.0
R5年　12月	654	100.3	3,025	98.1	446.1	463.3	909.4	103.6
R6年　1月	452	92.1	1,752	98.3	289.5	313.3	602.8	139.8
R6年　2月	413	93.4	1,522	97.9	368.7	325.8	694.5	108.3
R6年　3月	467	100.2	1,704	106.8	437.9	333.3	771.2	100.8

○輸出量の推移(単位:ﾄﾝ、%)

○市況の推移: 東京市場(税込み、単位:円/kg、%)

暦年	和牛去勢A-5		和牛去勢A-4		交雑牛去勢B-3		乳牛去勢B-2	
	価格	前年比	価格	前年比	価格	前年比	価格	前年比
R2年	2,459	90.0	2,103	87.3	1,398	85.9	924	91.0
R3年	2,702	109.9	2,427	115.4	1,554	111.1	1,004	108.6
R4年	2,607	96.8	2,348	96.9	1,523	98.1	1,042	102.4
R5年	2,558	98.1	2,202	93.8	1,474	96.8	878	84.3
R5年12月	2,736	101.8	2,416	100.7	1,642	103.7	795	77.3
R6年1月	2,595	101.6	2,315	101.0	1,515	103.2	866	93.9
R6年2月	2,578	102.7	2,255	103.0	1,545	112.8	845	92.6
R6年3月	2,530	98.1	2,179	96.6	1,546	107.3	877	94.4
R6年4月速報値	2,494	95.3	2,166	93.0	1,605	106.4	926	85.8

農水省食肉流通統計
(速報値は農畜産業振興機構が公表する東京市場の平均枝肉価格)